



Canon

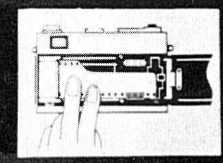
キヤノネット

QL17

QL19

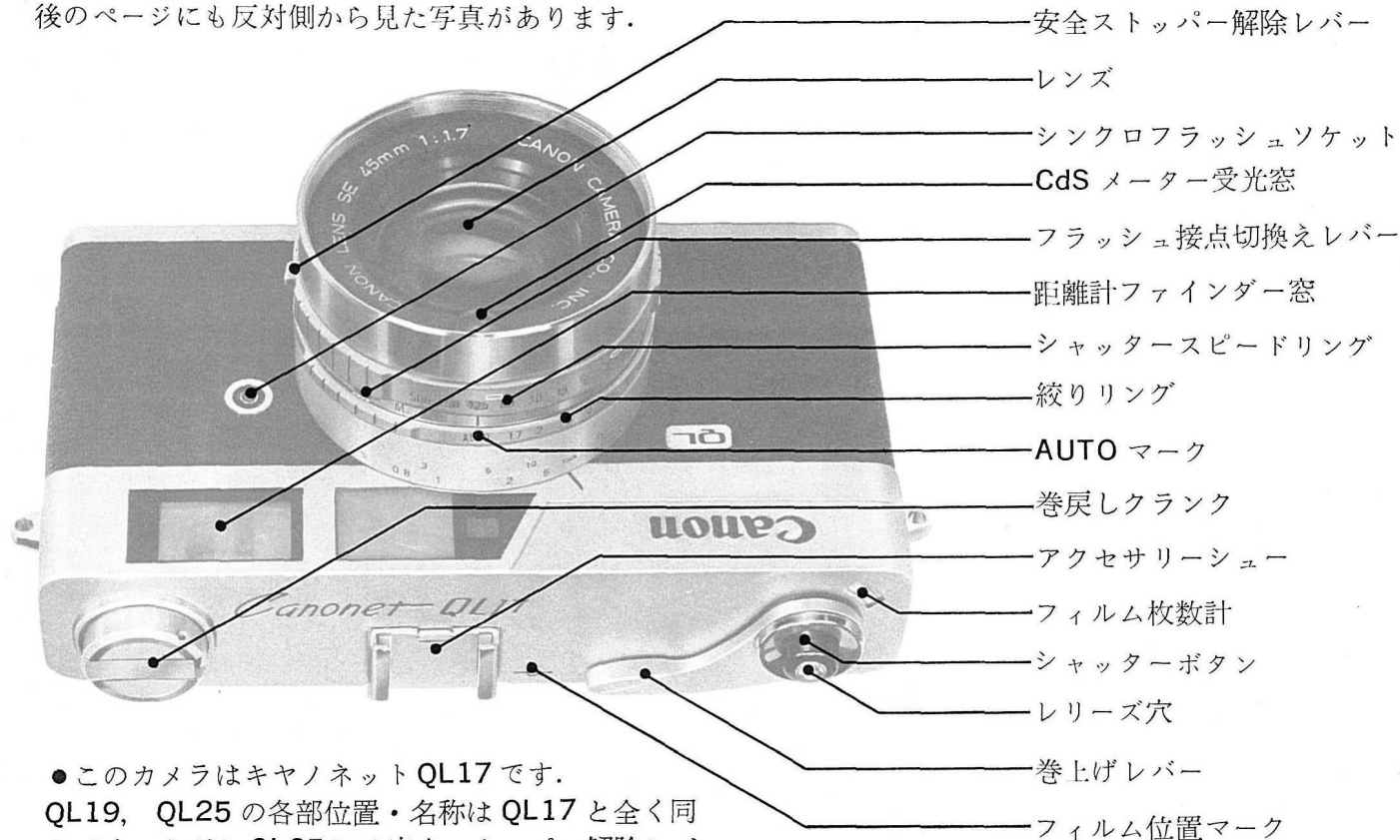
QL25

使用説明書





●このページを開いたまま本文の説明をお読みください。各名称の位置が一目でわかって便利です。最後のページにも反対側から見た写真があります。



安全ストッパー解除レバー

レンズ

シンクロフラッシュソケット

CdS メーター受光窓

フラッシュ接点切換えレバー

距離計ファインダー窓

シャッタースピードリング

絞りリング

AUTO マーク

巻戻しクランク

アクセサリーシュー

フィルム枚数計

シャッターボタン

レリーズ穴

巻き上げレバー

フィルム位置マーク

●このカメラはキヤノネットQL17です。

QL19, QL25の各部位置・名称はQL17と全く同じです。ただしQL25には安全ストッパー解除レバー、セルフタイマーレバーおよびフラッシュ接点切換えレバーがありません。

ごあいさつ

キヤノネット QL をお選びくださいますようお願いいたします。キヤノネット QL は、250万台という世界新記録を打ちたてた EE カメラの王者キヤノネットに、キヤノンが開発したフィルム自動装てん機構 QL を組み込んだ新鋭機です。被写体にピッタリの露出を自動的に選ぶ正確な EE 機構に加えて、フィルム装填のわずらわしさを一挙に解決した QL 機構をもつキヤ

ノネット QL は、使いやすいカメラの決定版として世界的定評をかちえています。キヤノネット QL には、お客さまにお選びやすいよう、高性能型QL17、標準型QL19、普及型QL25の三機種が勢ぞろいしています。どの機種も最高のキヤノンレンズをもち、簡単な操作で得られる最高の画質に、きっとご満足いただけます。

キヤノネット QL の特長

1 QL 機構によるフィルム操作
フィルムをカメラにのせるだけで、スピーディに確実にフィルムがつめられます。はじめての方でも成功率100%、独創のカメラメーカー・キヤノンが生んだ市販の35ミリパトローネフィルムなら何でも使える画期的な機構です。

2 安定した EE 機構
被写体の明るさにいつもぴったりの露出を選ぶ EE 機構 — この正確さは世界の目として現役で活躍中のキヤノネットが証明しています。露出計はCdSを用いた高性能型。

3 明るくシャープなキヤノンレンズ
45mm F1.7 は電子計算機を駆使した初の自動設計レンズ、F1.9 は世界の目キヤノネットのレンズ、そして新設計 4群 5枚構成の F2.5 レンズ、いずれもキヤノンの伝統ある技術、最新の設備から生まれたもの、ファインダーもコーティングを重ねて一そう鮮明です。

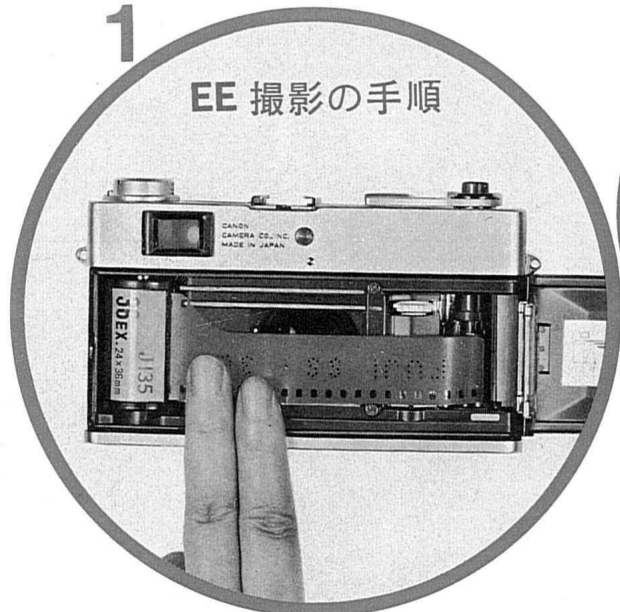
4 手動絞りによる普通撮影
フラッシュ撮影、特殊目的の撮影には、任意の絞りを選んで撮影できます。

QL25 QL19 QL17

レ ン ズ	45mm F2.5 4群5枚構成	45mm F1.9 4群5枚構成	45mm F1.7 5群6枚構成
シ ャ ッ タ ー	1/15秒~1/500秒 倍数系列およびB	1秒~1/500秒 倍数系列およびB	
セルフタイマー	なし 専用アクセサリとしてセルフタイマー7あり	内 蔵	
露 出 計	超高感度 CdS 露出計, 電源に水銀電池使用		
E E 機 構	露出計, シャッター, 絞りの完全連動. シャッター優先式		
手 動 絞 り	可能, 露出計単独使用も可能	可 能	
E E 連 動 範 囲	ASA800・F2.5・ $\frac{1}{15}$ 秒~ASA25・F16・ $\frac{1}{500}$ 秒 ASA100に対してEV4.5~17	ASA800・F1.9・ $\frac{1}{15}$ 秒~ASA25・F16・ $\frac{1}{500}$ 秒 ASA100に対してEV3.5~17	ASA800・F1.7・ $\frac{1}{15}$ 秒~ASA25・F16・ $\frac{1}{500}$ 秒 ASA100に対してEV2.5~17
フィルム感度目盛	ASA 25~800		
ファインダー	多層膜コーティングの明るいファインダー, 2重像合致式距離計連動, パララックス自動矯正式マークファインダー, 倍率0.7X, 視野内に絞り目盛および警告マークあり		
シンクロ接点	X接点	M-X 接点切換え式	
フィルム装填	キヤノン独特のQL機構による簡単な装てん方式 35ミリパトローネ入りフィルム専用		
フィルム巻上げ	1作動 120°回転巻上げレバー式		
フィルム枚数計	自動復帰順算式		
大 き さ ()内はレンズ突出量	140mm×79mm×31mm (37mm)	(35mm)	(36mm)
重 量	720g	750g	780g

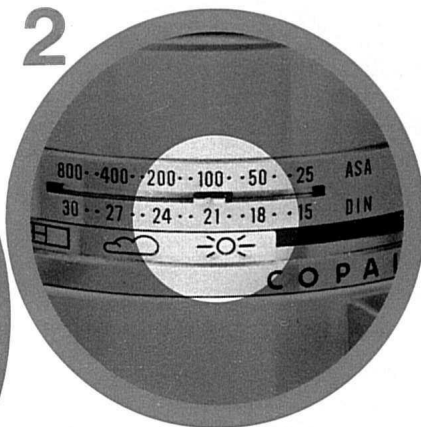
1

EE 撮影の手順



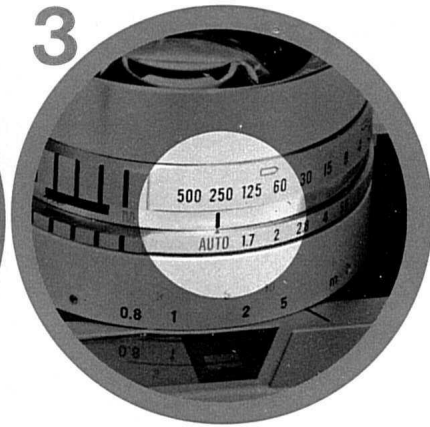
QL でフィルムをつめる

2



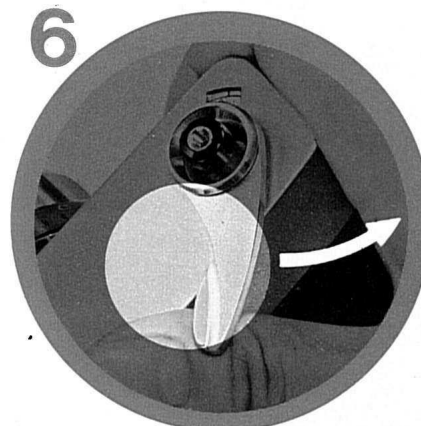
フィルム感度を合わせる

3



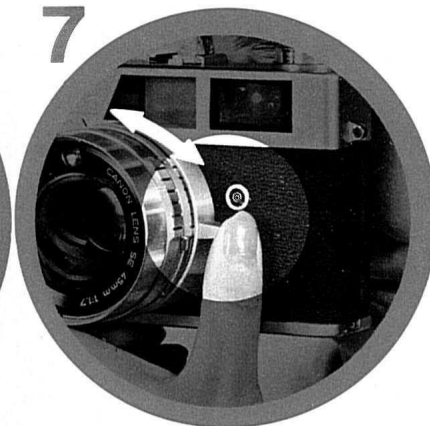
絞りリングを**AUTO**にセットする

6

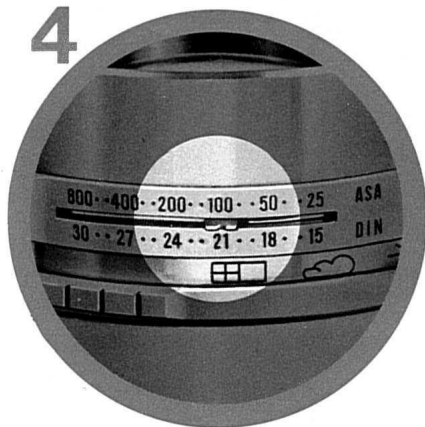


レバーを巻上げる

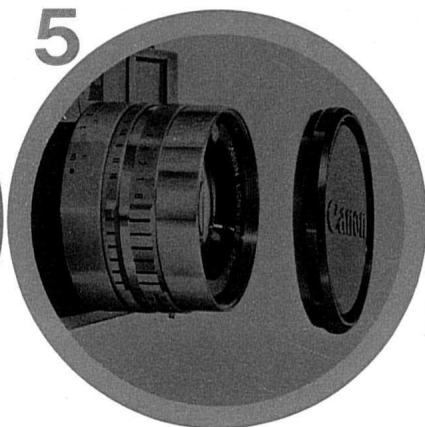
7



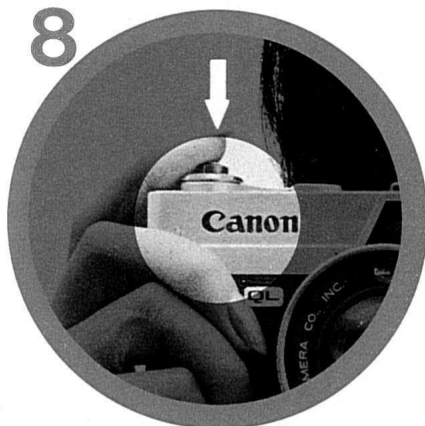
ピントを合わせて構図をきめ



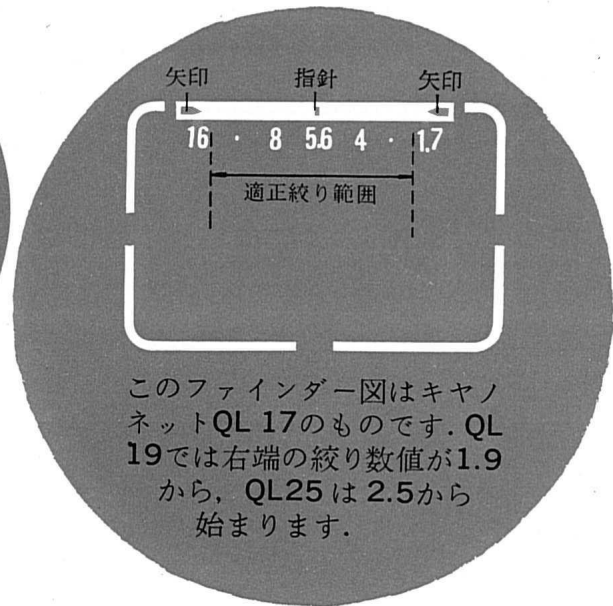
シャッターリングを回して
感度切換えレバーを簡易露
出マークに合わせる



レンズキャップをはずす

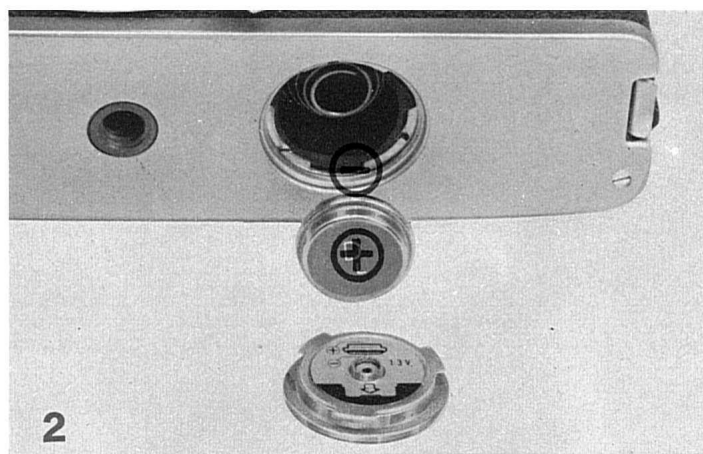
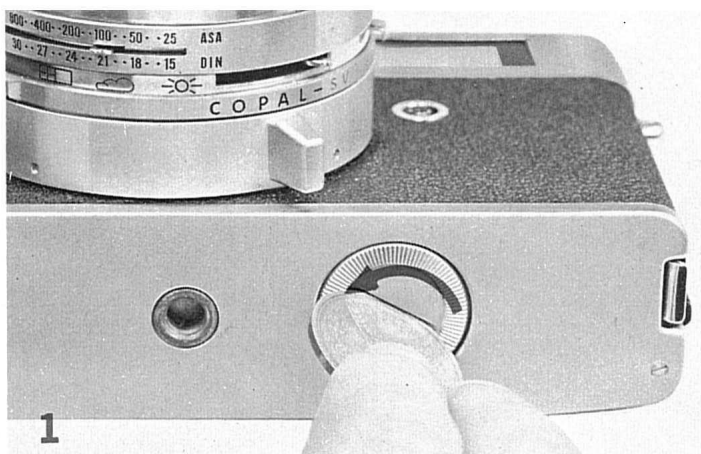


シャッターボタンを静かに押す



このファインダー図はキャノ
ネットQL 17のもので、QL
19では右端の絞り数値が1.9
から、QL25は2.5から
始まります。

- ① 針が適正絞り範囲にある……適正露出ができる。
- ② 針が矢印部に……矢印方向へシャッターリングを回して写せ。
- ③ リングを回しても針が適正絞りを指さない……EE露出できない条件下。



水銀電池のつめ方

最初に別封の水銀電池を電池室につめてください。水銀電池はCdSメーターの電源ですから、これを入れ忘れるとメーターが作動しません。

1 水銀電池室カバーに硬貨をあてがい、左回しに回して、O (open) をボディの指標 (・) に合わせるとはずれます。

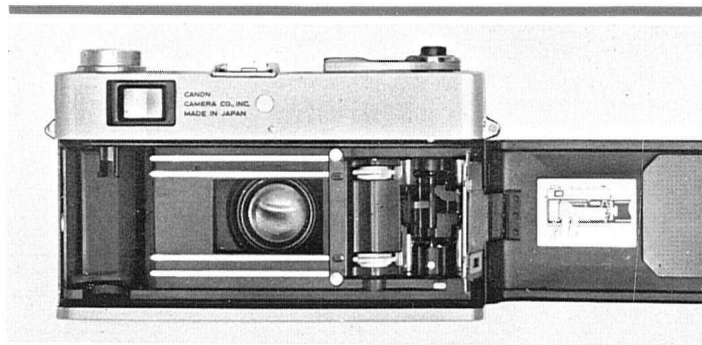
2 水銀電池の中心接点のある方を奥に向けて押しこみ、カバーを右回しに回しC (close) を指標に合わせて取付けます。

挿入のさい⊕⊖を間違えぬこと、逆に入れるとメーターが作動しません。

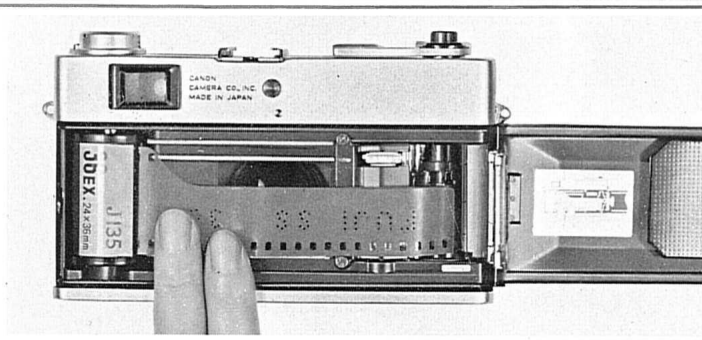
- 水銀電池はナショナル製 MD 型が使用されており、米国の Mallory RM-625R, Eveready E625N, GE # 625, Burgess Hg 625R に相当し、約1年の連続使用に耐えます。
- 水銀電池に汗や指紋をつけぬこと
水銀電池は乾いた布でよく拭いてから入れてください。汗や指紋は腐蝕の原因になり、カメラの接点を損なうおそれがありますから十分ご注意ください。
- 長期間使用しないときは、水銀電池をはずして乾燥した場所へ保存しておいてください。
- 水銀電池室にはバネが入っているので、電池を取り出すとき不用意にカバーをはなすと電池がとび出すおそれがあります。ご注意ください。

- フィルムは
QL でつめる

1 ひらく



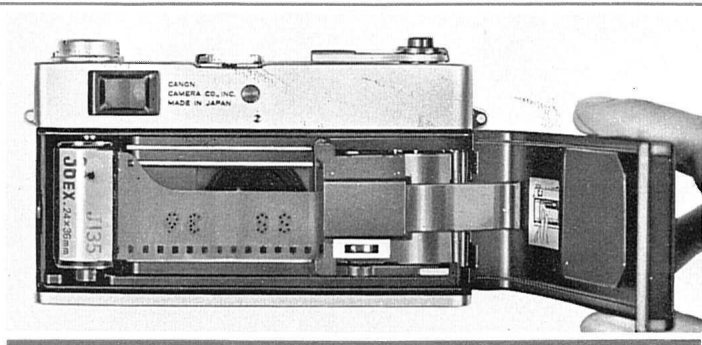
2 のせる

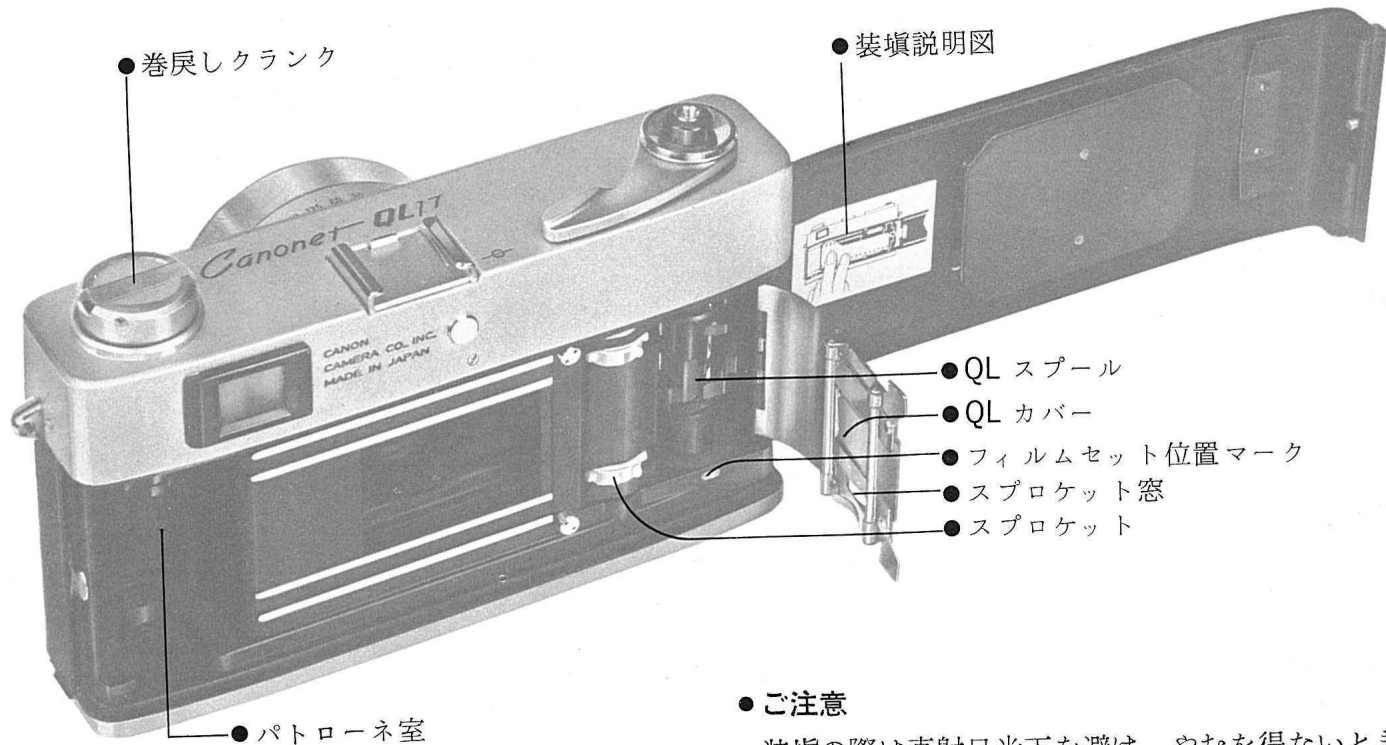


- 使用フィルム

QL 方式によるフィルム
自動装填は、市販のパト
ローネ入り 35mm フィ
ルムがすべて使えます。

3 とじる

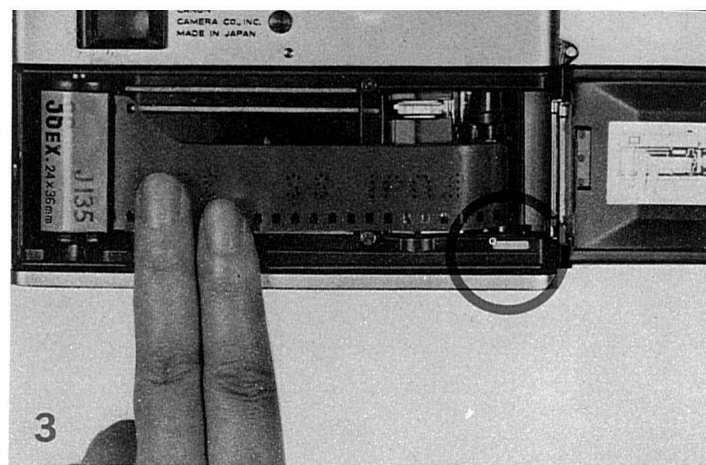
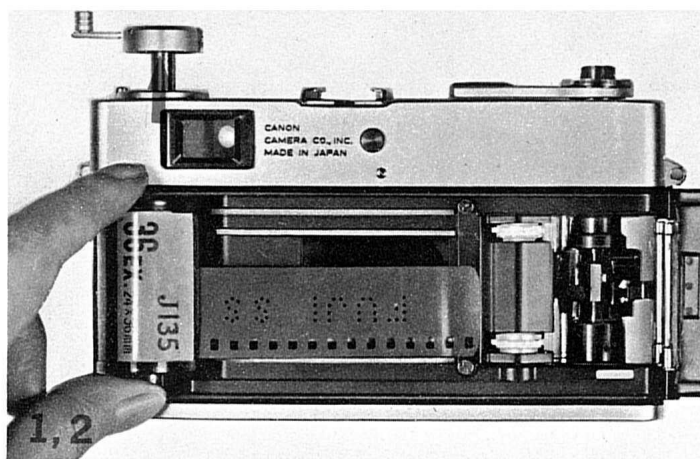




● ご注意

装填の際は直射日光下を避け、やむを得ないときは太陽に背を向け、す早くお取扱いください。

- 暗室装着用長巻きフィルムを使用するときはリーダー部の先端がパーフォレーションとパーフォレーションの間にくるよう切断してください。

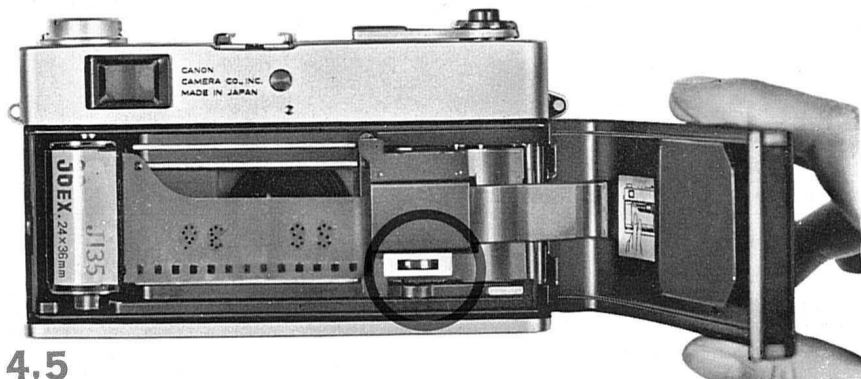


フィルムのつめ方

- 1 裏蓋を開きます**
 裏蓋止め金を引くと裏蓋が浮上がります。裏蓋はいっぱいに開いてください。
 QL カバーも同時に約 90° 開きます。
 QL カバーはフィルム装てんに大切なはたらきをするもので、裏蓋の開閉につれて自動的に開閉します。QL カバーに直接手をふれて動かさぬようにしてください。

- 2 パトローネを入れます。**
 巻戻しノブを十分に引上げ、パトローネを入れたら、ノブを元の位置に押し下げ、フォークをパトローネ軸にさし込みます。ノブが十分に戻りきらないときは、左右に僅か回すようにすると収まります。

- 3 フィilm先端を—マークに合わせます**
 パトローネの向きを写真のように整え、フィルムを上向きに浮かせないように左手で押えながら、



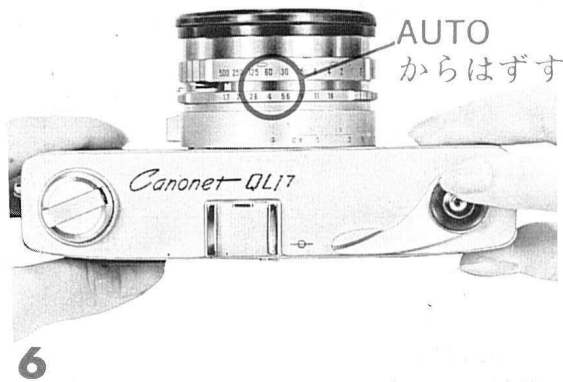
4,5

4 裏蓋を半ば閉じると、QL カバーがフィルムを押えます。スプロケット窓でフィルムが歯車に正しくかかっているかどうかを確認します。

5 裏蓋を閉じます。
裏蓋は押すだけでロックされます。

- フィルムにたるみがあると、パトローネが浮上がり裏蓋が閉まりません。ご注意ください。

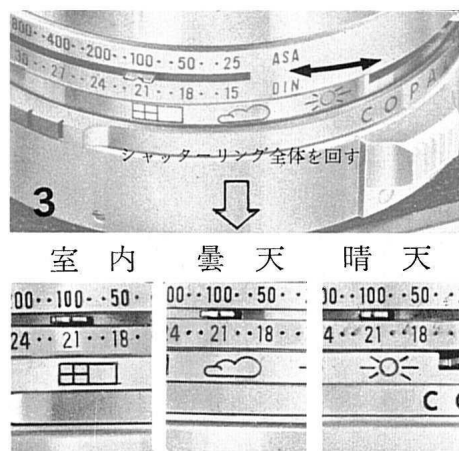
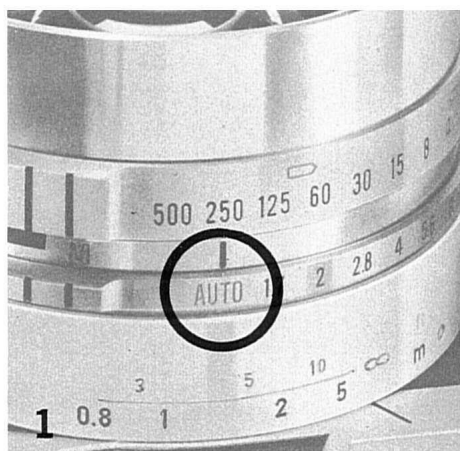
6 3回空写し。
絞りリングをAUTOからはずし、レンズキャップをしたままシャッターを切り、フィル



ム送り操作を3回繰返してください。フィルムのリーダー部が送られてフィルム枚数計の表示が0になり、次の巻上げで1枚目の撮影準備ができます。

- レバーを巻上げたとき、巻戻しノブが回転することによって、フィルム送りの状態が確かめられます。フィルムにたるみがあるときは、巻戻しクランクを回してたるみをとっておくこと。

7 絞りリングをAUTOに戻します。



EE 撮影の準備

EE 撮影を行なう前に、 つぎの3つの条件をカメラに与えておいてください。

1 絞りリングのAUTOマークを指標に合わせます。

2 フィルム感度レバーを押しながら回して使用フィルムの感度目盛に合わせます。

- フィルム感度はフィルムの外箱に示されています。
- フィルム感度レバーをセットするときには、シャッタースピードを 1/15秒 以上の高速にセットしておくことが必要です。 1/15秒 以下では高感度フィルムの場合には、ストッパーがはたらいてセットできま

せん。(QL17, QL19 の場合)

- フィルム感度表示は次の 16 種でクリックストップがかかります。

(32)(40) (64)(80) (125)(160) (250)(320) (500)(640)
 ASA 25・・50・・100・・200・・400・・800
 DIN 15・・18・・21・・24・・27・・30
 (16)(17) (19)(20) (22)(23) (25)(26) (28)(29)

3 シャッターリング全体を回してフィルム感度レバーのある目盛位置を簡易露出マークの快晴☀曇天☁室内☑のどれかに合わせます。

- 簡易露出マークに合わせる際はかならずシャッターリング全体を回します。合わせ方はおおよその程度でよく、シャッターリングがクリックストップにかかる位置にセットします。

簡易露出マークを合わせると、

ASA 100 の場合シャッタースピードは

☉ ≤ 1/500 秒 ☁ 1/125 秒 田 1/30 秒
にセットされます。

不適正露出防止の安全装置

(QL 17, QL 19 の場合)

- EE 作動範囲外の露出条件にセットされることを防ぐために、シャッターリングには安全ストッパーがついています。シャッターリングがストップしたら、それ以上むりに回さないようにしてください。安全ストッパーがかかる位置は次の通りです。

使用フィルムが	ASA 80以下の場合	1 秒
"	100の場合	1/2 秒
"	200 "	1/4 秒
"	400 "	1/8 秒
"	800 "	1/15 秒

- 安全ストッパーの制限を越えて、どうしても遅いスピードでシャッターを切りたいときには、安全ストッパー解除レバーを押しながらシャッターリングを回してください。この場合にはEE がはたらきませんからAUTO をはずし、手動絞りで撮影します。

QL25 のシャッタースピードは 1/15秒 までですから、安全ストッパーの必要がありません。

ご注意 ①

B 目盛をEE 撮影に使わないこと。EE 撮影でB 露出をすることは意味がありませんし故障の原因になりますから使用しないでください。

QL17, QL19には、B 目盛に安全ストッパーがついていますが、QL 25 には安全ストッパーがありませんから、とくにご注意ください。

▶万一、AUTO でB 露出のシャッターボタンを押してしまったら……

つぎの手順で機構の調整を行なってください。

- ①シャッタースピードはB のまま、絞りリングを手動絞りに直して空写しをする。
- ②シャッターリングを回してB からほかの目盛にうつす。
- ③EE 撮影を行なうとき AUTO マークに戻す。

ご注意 ②

シャッタースピードの目盛の中間は使わないでください。

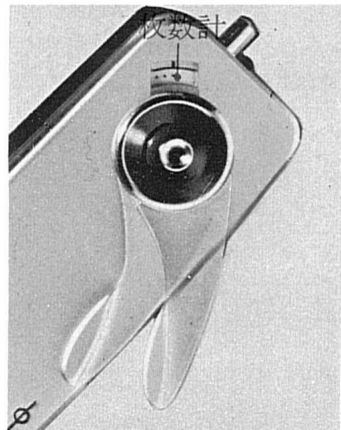
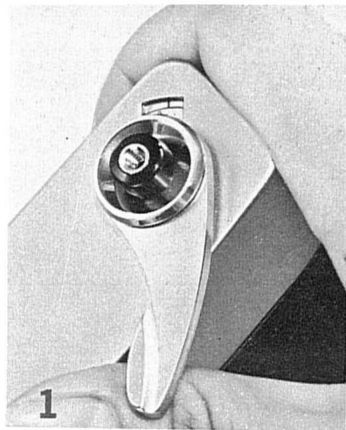
構 え 方



1. 両手で深くカメラをにぎり込むこと。
2. カメラを頬あるいは額に当てて固定すること。
3. 横位置のときは両ひじ、縦位置のときは少なくとも一方のひじをぴったり体につけること。

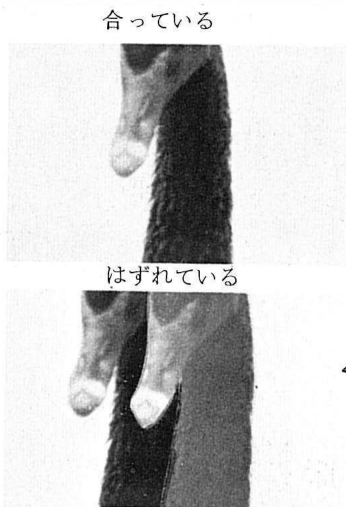
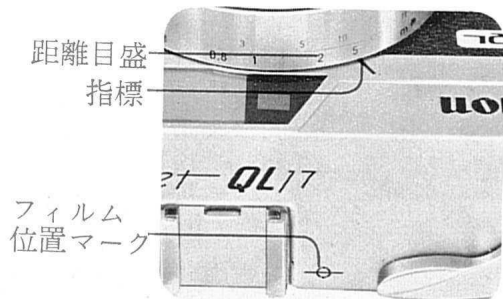


4. シャッターボタンはカメラぶれを起さぬよう静かに押すこと。
5. 1/30秒以下のスローシャッターを切るときは三脚とレリーズを用いるようおすすめします。



撮 影

1 レバーを巻上げます。
 フィルムが1コマ分送られ、シャッターがチャージされます。同時にフィルム枚数計が1目盛進みます。

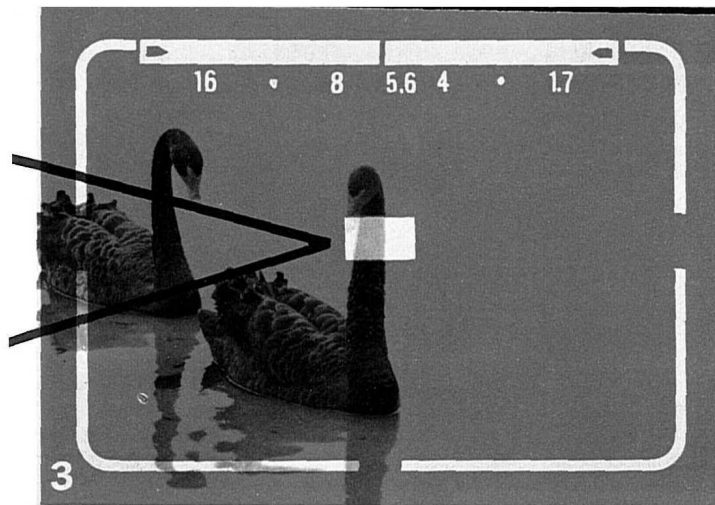


2 ファインダーをのぞいてピントを合わせます。

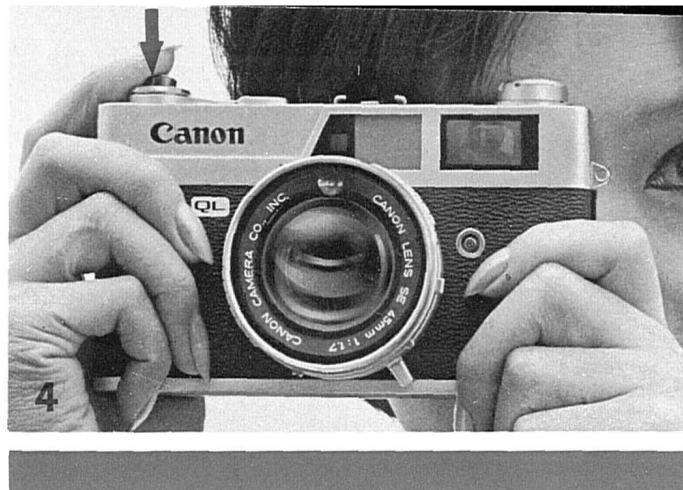
フォーカシングレバーを動かしファインダー視野の中央部に見える輪郭内で、被写体の2つの像が完全に一致したとき、その被写体にピントが合います。

距離目盛

ピントを合わせた被写体とフィルム面との距離を示すもので、距離指標によって撮影距離を読みとることができます。



3 構図をきめます。ワクのなかが写ります視野の周辺に見える四角い枠のなかがフィルムに写される画界です。この枠はピント合わせに連動して、自動的にパララックス(視差)の矯正をしますから、狙ったとおりの範囲が完全にフィルム面に収まります。



4 ファインダーを見ながらシャッターボタンを押します。

指針が適正露出部内にあればシャッターが切れます。シャッターボタンはカメラぶれを起さぬよう静かに押してください。

- シャッターがはたらくと、再びレバーの巻上げができません。

EE 撮影不適正露出の場合は安全装置がはたらいてシャッターボタンを押しても切れません。このときファインダー内の指針は、適正露出範囲外にあります。適正露出部内に指針がくるように矢印の方向へシャッターリングを回してください。

(次頁参照)

不適正露出の警告

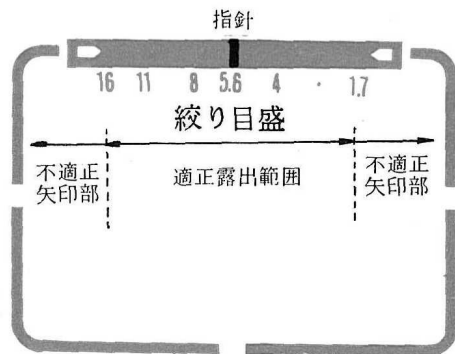
カメラを被写体に向けると明るさによって指針が移動して EE 撮影の条件を示します。

正しい露出を行うためには下図の指針の指示に従って撮影してください。

①指針が適正露出範囲にあるとき

②指針が右矢印部にあるとき

③指針が左矢印部にあるとき



露出アンダー側

露出オーバー側



シャッターリングを左へ回せ!
(指針が適正範囲へ進むまで)



シャッターリングを右へ回せ!
(指針が適正範囲へ進むまで)



指針が絞り目盛を示し、適正露出でシャッターが切れる。

左右の矢印はシャッタースピードの変更マーク、絞り目盛部は適正露出範囲です。

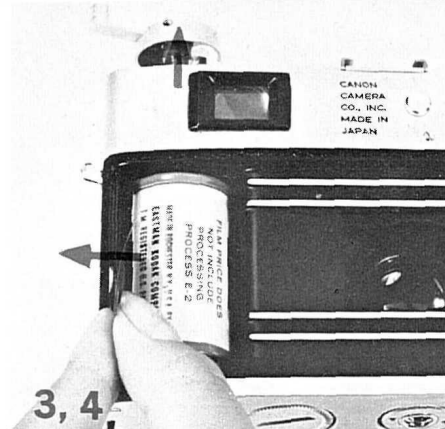
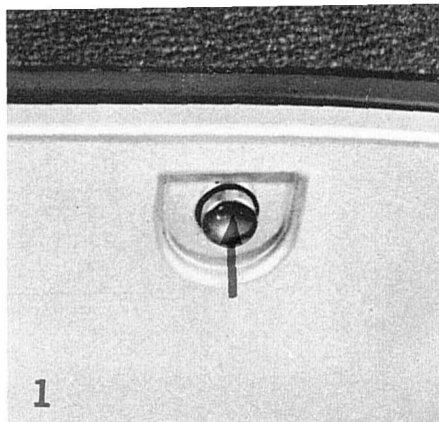
●シャッターリング（または絞りリング）を回すときはシャッターボタンから手を離してください

④シャッタースピードを変えても指針が適正範囲へすすまないとき



EE 撮影ができません
(露出計の範囲外)

- シャッターリングをシャッタースピードの範囲で回しても指針が適正露出部を指さないときは被写体が極端に明るい暗いかで露出計の限界を越しているときですから、EE撮影はできません。
- シャッターリングには矢印がついていますからファインダー指針のある矢印方向に合わせてシャッターリングを回してください。
- 適正露出部で、絞り目盛の中間の点は右からF2.8, 11 (QL 17, QL 19の場合) F 11 (QL 25) を示します。
- レバーが完全に巻上げられていないとシャッターボタンを押してもシャッターが切れません。
- 主被写体にくらべて、バックが非常に明るい場合や逆光の場合などには、主被写体が露出不足になりがちです。そのような場合には特にフィルム感度目盛を一段階位落して撮影する方法があります。
たとえば使用フィルム感度がASA100の場合 ASA50 にセットします。これは例外手段ですから撮影が終わったらすぐフィルム感度を正規に戻してください。この方法が採れない場合は後記の手動絞り撮影に切りかえます。



フィルムの巻戻し

フィルムが終りになると巻上げができなくなります。撮影されたフィルムはカメラの中に裸のまま巻取られていますから、巻戻さずに裏蓋を開くと全部無駄になります。ご注意ください。

1 巻戻しボタンを押し込む。

2 クランクで巻戻す。
巻戻しクランクを引起し、矢印方向に回しフィルムを元のパトローネに巻戻します。巻戻しボタンの回転が止ったら巻戻しを中止します。

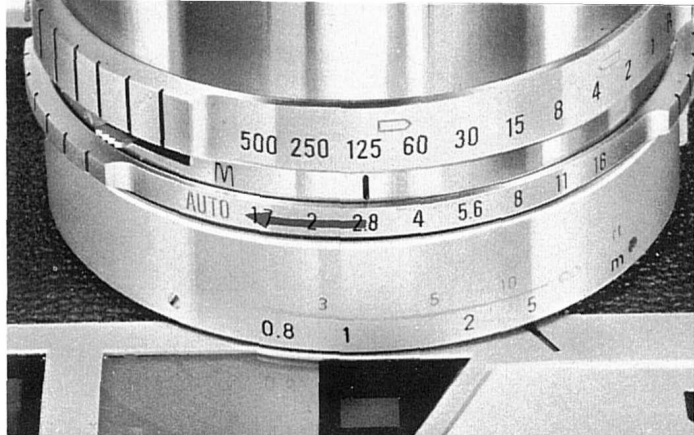
●フィルムを全部パトローネに巻込むと取出したとき
20

洩光の心配があります。巻戻しが終わると、クランクの抵抗がやや軽くなるのでわかりますから、ここでクランクの回転を止めてください。

3 裏蓋を開き、

4 パトローネを取出します。
巻戻しノブを十分引上げて取出してください。

- 巻戻しボタンは、レバーを巻上げると自動的にもとへ戻ります。
- フィルムの終りで無理に巻上げると、フィルムが切れて、巻戻しができません。この際は暗室内で処理するか、カメラ店へ持って行ってください。



キヤノネット QL はいずれもAUTO マークをはずすと自動機構が解除され、絞りとシャッタースピードを自由に組合せて撮影できます。シャッターによる効果や絞り効果を使いたい場合、また非常に暗い被写体で長時間露出を必要とするとき、あるいはフラッシュ撮影で絞りをきめるときご利用ください。

手動絞り

絞りは光の量を調節するもので、数値が大きくなるに従って暗くなり、目盛の一段ごとに明るさが半分になります。したがって、絞りを1目盛絞り込んだときは露出時間を2倍にし、2目盛絞り込んだときは露出時間を4倍にしなければなりません。絞り目盛と露出量の比率はF 2.8、F 2を基準として、それぞれつぎのとおりです。（上段はF2、下段はF2.8を基準）

絞り値 (F)	1.7	1.9	2	2.5	2.8	4	5.6	8	11	16
露出比率	1/1.4	0.9	1		2	4	8	16	32	64
			0.8	1	2	4	8	16	32	

▶キヤノネット QL 25 は、手動絞りのときもファインダーをのぞくと露出計指針は正しく作動していますから、単独露出計としてもご利用になれます。

絞り効果のまとめ

- 数値が大きいほど光量が少くなる
目盛1段ごとに1/2の明るさになる。
- 数値が大きいほどピントの合う範囲が広い。
- 撮影距離が遠いほどピントの合う範囲が広い。
- 開放になるほどピントが浅い。

シャッタースピードは露出時間の調節をするもので、絞り系列と同様、各目盛は2倍に変る倍数系列になっています。従って1目盛速いシャッターを選んだときは絞りを1目盛開いてやることとなります。

シャッターの効果

高速：ぶれ防止、速い被写体撮影用、浅い絞りを生かす撮影。

低速：暗い被写体の撮影、ぶれの効果、深い絞り効果を生かす撮影。



B (バルブ) 露出

1秒以上(QL25の場合は1/15秒以上)の長時間露出をするときはB露出をします。シャッター目盛のBを指標に合わせてシャッターボタンを押すと、押しているあいだ中シャッターが開いているので、好みの長時間露出ができます。

1 絞りリングをAUTOからはずし、手動絞りに合わせる。

2 QL17, QL19の場合は、安全ストッパー解除レバーを押しこんだままシャッターリングを回して、Bに指標を合わせます

QL25はシャッターリングをそのまま回して、Bを指標に合わせます。

3 巻上げレバーを巻上げてシャッターボタンを押すと、押しているあいだ中、シャッターが開き、はなすと閉じて露出が終わります

- QL25の場合は、AUTOのままバルブ(B)で撮影しないようご注意ください。
- QL19, QL17の安全ストッパー解除レバーは、シャッターリングをBから戻すと、飛び出してもとの状態にもどります。

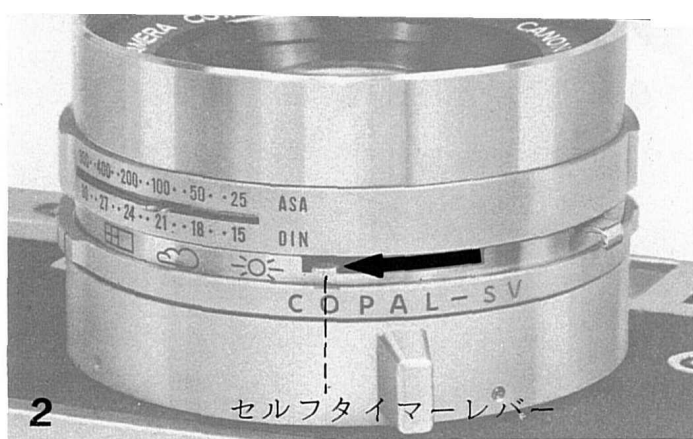
T 露出

極長時間露出を行なうときは、上記B露出にセットし、ロック付レリーズによってシャッターを開き、レリーズを押したまま、固定しておきます。



1

フラッシュ接点切換レバー



2

セルフタイマーレバー

セルフタイマー (QL19,QL17の場合)

セルフタイマーを使用するとシャッターボタンを押した後、約 10 秒おくれて、シャッターが作動します。次の順序で行ないます。

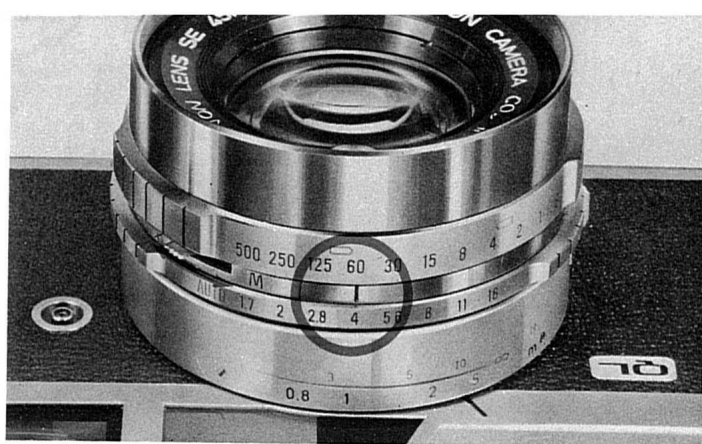
1 フラッシュ接点切換レバーを X 側にたおします。

2 セルフタイマーレバーを矢印の方向に動かしてセットし、巻上げレバーを巻きあげます。

3 シャッターボタンを十分に押し下げます

ご注意

- フラッシュ接点を X に切換えずにセルフタイマーレバーを動かさないこと。
- シャッターボタンはカメラのうしろから押しましょう。カメラの前に立つと、その陰の明るさに対する適正露出が与えられるため、主被写体に正しい露出が与えられなくなります。ご注意ください。
- セルフタイマー使用の場合、M 級バルブによる撮影は 1/30 秒よりおそいシャッターをお使いください。
- セルフタイマーは手動撮影でも利用できます。
- QL25 には専用アクセサリとしてセルフタイマー 7 が用意されています。どうぞご利用ください。



フラッシュ同調

フラッシュ撮影は、被写体が暗くてEE撮影ができないとき行ないます。絞りは**AUTO**をはずし、手動絞りで撮影します。

1 フラッシュユニットをアクセサリシューに取付け、コードをフラッシュソケットにさし込みます。

2 M級・F級のフラッシュバルブ、およびスピードライトが使えます。

QL17, QL19は、使用バルブによってフラッシュ接点切換えレバーをMかXに切換えます。(右表参照)

QL25はX接点のみですから切換えレバーはありません。

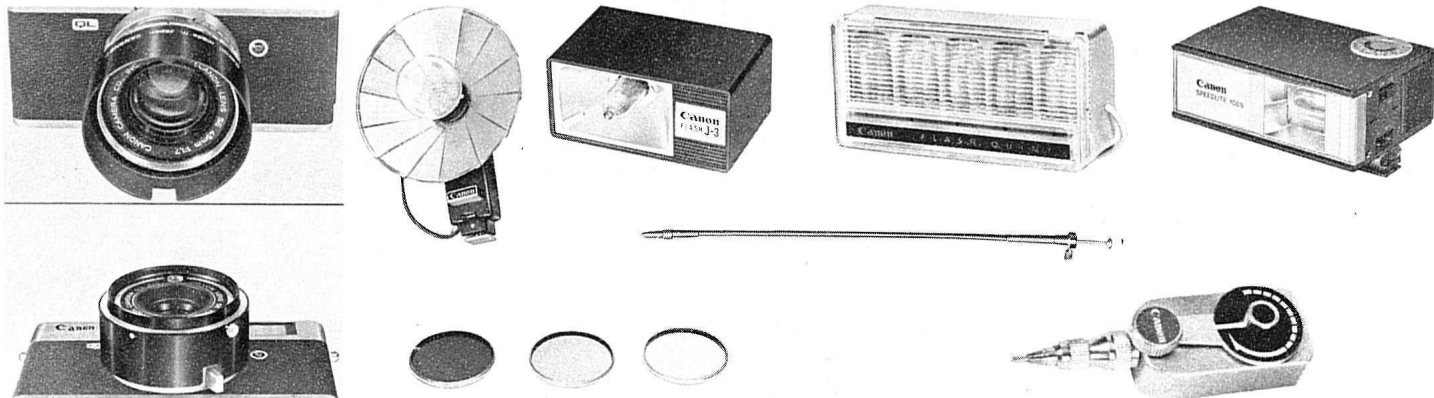


3 フラッシュ撮影の場合、絞りは使用するフラッシュバルブのガイドナンバーを撮影距離で割って求めます。

●ガイドナンバーはフラッシュバルブの外箱に記載されています。

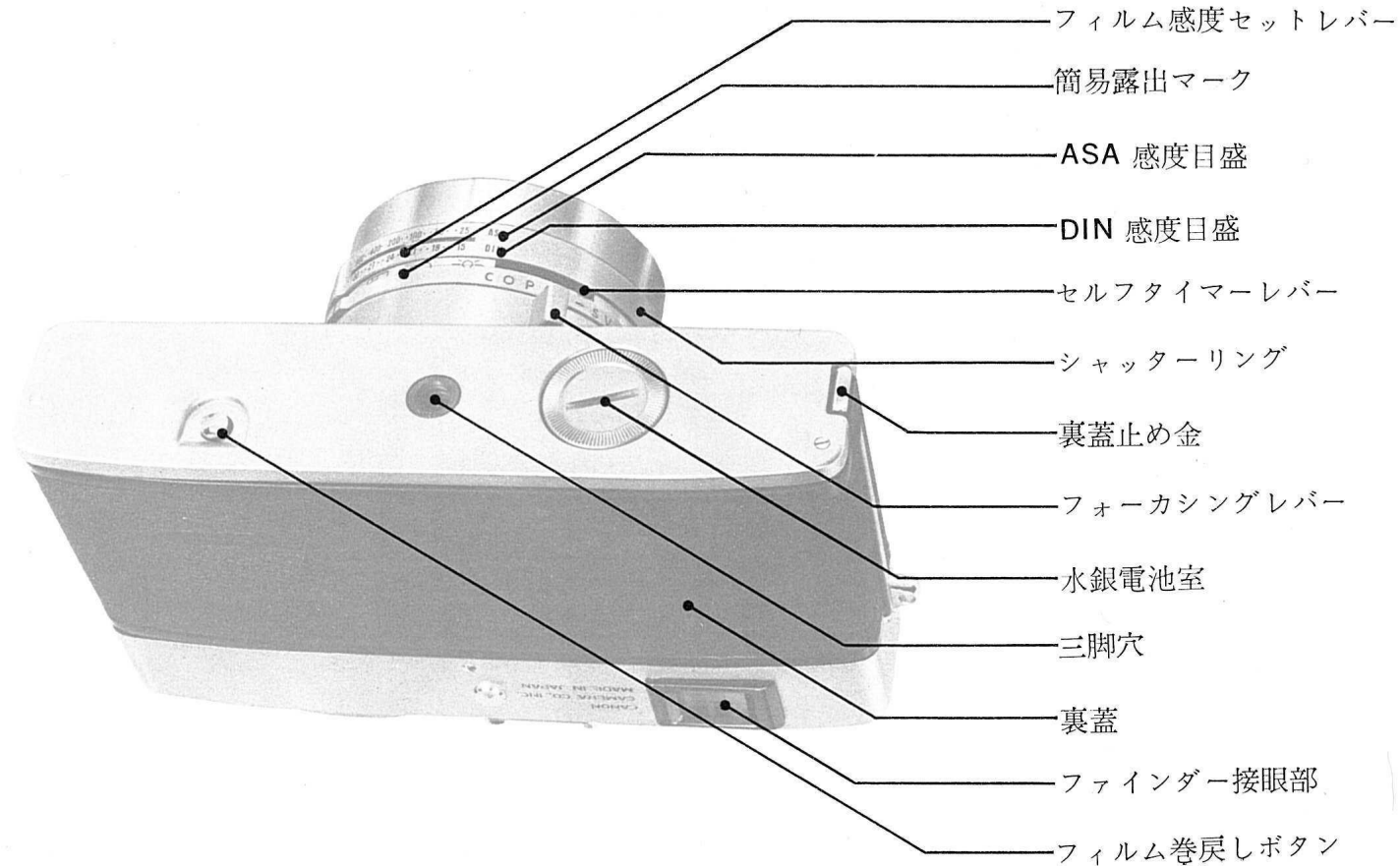
フラッシュの同調範囲

	QL17. QL19		QL25	
フラッシュバルブ	接点	同調範囲	接点	同調範囲
M 級	M	1/60~1/500 秒	X	1/60秒 より遅い 低速
	X	1/30秒 より遅い低速		
F 級	X	1/60秒 より遅い低速	X	1/60 秒より遅い 低速
スピードライト	X	全シャッター スピード	X	全シャッター スピード



キヤノネットQLのアクセサリ

レンズフード	450円	スピードライト 100S	8,100円
		(ケース・コード)	700円
フラッシュユニット J-2	1,050円	55mm ねじ込み式フィルター	各1,000円
AG, PHベースレスアダプター使用可能		UV, Y1, Y3, O1, R1, G, スカイライト,	
万能型		カラーコンバージョン, ND全11種	
ベースレスアダプターAG, PH	各 90円	プラスチックケース付	
フラッシュユニット J-3	1,050円	キヤノンリリース	250円
ベースレスバルブ専用			
フラッシュクイント	2,950円	セルフタイマー 7	740円
5 コのバルブを連続発光, AGタイプ専用		キヤノネットQL25専用	



フィルム感度セットレバー

簡易露出マーク

ASA 感度目盛

DIN 感度目盛

セルフタイマーレバー

シャッターリング

裏蓋止め金

フォーカシングレバー

水銀電池室

三脚穴

裏蓋

ファインダー接眼部

フィルム巻戻しボタン

フィルターの使い方

キヤノネット QL は3機種とも1枚のフィルターでレンズ・露出計がともにカバーされます
したがってフィルター使用の場合も 露出を補正する必要がありません

露出倍数	種	類	フィルター効果
1	UV(SL39・3C)	黑白カラー共用	<ul style="list-style-type: none"> 紫外線だけを吸収し、各色光には無影響です。海浜、高山などの紫外線の多い所では特に有効です。常用。
1.5	Y1 (SY 44・2C)	} 黑白用	<ul style="list-style-type: none"> 黑白フィルムに利用して、写すもののコントラストを強めます。海の色を整えたり、青空をおさえて白雲を浮き出させます。赤や黄色は多少明るくなります。 青色はかなり暗く、黄や赤が見た目より大分明るくなります。コントラストを強調し遠景には特に有利です。 赤が極端に白くなるのを防ぎ、空や顔を適当な明るさの調子にし、新緑などの明るさもそのまま表現します。 コントラストを強調し場合によっては白昼の調子も夜景に近くなります。赤外フィルムに併用するフィルターでもあります。
2	Y3 (SY 50・2C)		
3	O1 (SO 56・2C)		
3	G1 (MG 55 C)		
6	R1 (SR 60・2C)		
4	ND 4	} 黑白カラー共用	<ul style="list-style-type: none"> ND 4 は 1/4, ND 8 は 1/8 に光量を減じます。カラーの色再現性には全く影響がありません。
8	ND 8		
1	スカイライト	} カラー用	<ul style="list-style-type: none"> 青空や木蔭の色を自然に近づける作用をします。 デイライトタイプの曇天、雨天、日陰用。 ユニバーサルタイプの曇天用、タングステンタイプの朝夕用。 タングステンタイプの昼光転換用。 デイライトタイプの朝夕用。 デイライトタイプの人工光フラッシュ用。 デイライトタイプの人工光転換用。
1.5	CCA 4		
	CCA 8		
2			
2	CCA(12に相当)		
1.5	CCB 4		
2	CCB 8		
3	CCB(12に相当)		

キヤノン株式会社

東京都中央区銀座5-9-9 〒104 ☎(03) 572-4251

営業所・サービス・ステーション

銀座・(104) 東京都中央区銀座5-9-9 (吹原ビル1階) (03) 572-4271-3
大阪・(530) 大阪府北区梅田2 (第一生命ビル2階) (06) 341-9335
名古屋・(450) 名古屋市中村区堀内町4-1 (毎日会館2階) (052) 581-3811
福岡・(810) 福岡市天神1-11-17 (福岡ビル9階) (092) 74-8431
広島・(730) 広島市幟町14-11 (0822) 21-4615-6
札幌・(060) 札幌市北三条西4-1 (第一生命ビル4階) (0122) 23-5788
仙台・(980) 仙台市東二番丁6-8 (富士ビル8階) (022) 25-0215-7
新潟・(950) 新潟市東大通1-2-3 (マルタケビル7階) (0252) 44-0758-9
静岡・(420) 静岡市鷹匠町2-3-6 (静米会館1階) (0542) 55-2241
横浜・(231) 横浜市中区桜木町1-1 (ゴールデンセンタービル1階) (045) 201-7348

